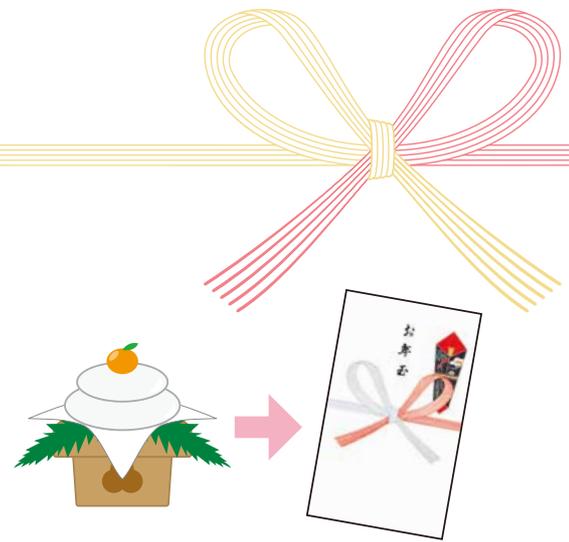


「お年玉」について

■お年玉の語源

古来の風習であった年神様に奉納された鏡餅を参拝者でもある家主が家族や使用人に砕いて半紙に包み分け与えたのが「お年玉」の起源ともいわれています。

鏡餅は元々鏡を形どったものであり、魂を映すものと言われていたことから「魂=玉」とも言われていたようで、年神様の玉ということから「年玉」、神様のお下がり物だから「御」をつけて「御年玉」と称されたようです。



～なぜポチ袋とも呼ぶの？～

お年玉袋を「ポチ袋」とか「祝儀袋」ともいいますが、その語源は僅かとか心ばかりという古い関西弁の「ぼちっと」、関東弁の「これっぽち」という言葉からきていると言われていいます。

小銭(僅かなお金)を入れる袋であることから「ポチ袋」と言われるようになったようです。

元々は、花柳界での芸妓・芸者の花代やお付きの人への祝儀(今でいうチップのこと)として小銭(おひねりとも言った)を手渡すのに懐紙や半紙に包んで手渡していましたが、小銭がこぼれやすいので、包み端を糊で止めるようになり、それがいつしか袋に変化していったようです。



■お年玉をあげる年齢は？

お年玉をあげる対象の年齢には、きまりや制限はありません。

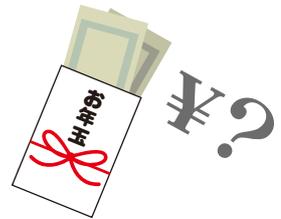
誰にあげるかはあげる側の気持ちによっても異なりますが、お金の価値を知らない幼児や大学生にまであげる必要があるかどうかについては、あげる対象の子供の年齢ではなく、その子の父母や祖父母などの家族との「お付き合い関係の度合」によって判断するのが一般的な考えのようです。また、子供が年老いた父母に「お年玉をあげる」習慣も各地にあるようです。



■お年玉の相場は？

お年玉の相場には、きまりや制限はありません。

昨今では親同士や親戚同士で「年齢ごとの額」や「対象年齢」などを、事前に話し合っ決めておくケースが多いようです。



■お年玉の最多回答金額

※三和銀行ホームコンサルタント「お年玉の平均回答額」から引用

送り先	自分の子供			親族の子供			知人・友人の子供			近所の子供		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
全体	1万円	5千円	3千円	5千円	3千円	1万円	3千円	5千円	1万円	3千円	5千円	2千円 1万円
小学校入学前	1千円	3千円	2千円	3千円	1千円	2千円	3千円	1千円	2千円	※	※	—
小学校低学年	3千円	2千円	1千円	3千円	5千円	2千円	3千円	2千円	3,001~ 4,999円	※	※	—
小学校高学年	5千円	3千円	1千円 2千円	3千円	5千円	2千円	3千円	1千円・2千円 5千円	—	3千円	5千円	—
中学生	5千円	1万円	3千円	5千円	3千円	1万円	5千円	1千円・3千円 1万円	—	※	—	—
高校生	1万円	5千円	2万円	5千円	1万円	3千円	5千円	1万円	5,001~ 9,999円	※	—	—
大学生	1万円	2万円	3万円	1万円	5千円	2万円	※	※	※	※	—	—
社会人	1万円	2万円	3万円	5千円	1万円	1万円・2万円 3万円	—	—	—	※	—	—

※はサンプル数が少ないためクロス集計していないもの。「—」は該当するサンプルがないもの。